



夢 柯 齋
 新 研 策 子
 編 者 曲 亭 畫 匠 北 齋
 第 五 卷
 笠 屋 之 勝 赤 根 半 七
 節 標 全 傳



特 別
 ^13
 3148
 5



特
3148
5

三七全傳南柯夢卷之九

東都

曲亭馬琴編及



霸後の病の上

半七が宿あり一皆掛の客店ハ驛稍盡処より。いと大にすうる家あり
 と昔のぶの生茂。埋と井の車ととも。身上久しくまわり。網代天井ハ
 中穿く。雨漏は煤を彩色壁の腰張悉剥く。長押し月を引く。
 高麗縁の席蓆とらうく切はる。藁を網とす。故事もあはれ
 竹縁の斜に朽く。絃断。琴も似く。こればかり一夜を明すの
 或は廻廻の後行者或は伊勢奈奈宮の男の童。囉斎物まのを思ふん
 ど。こゝろ米いそいで。出く。炊く。枕一つを借りて。燈火を置き。半
 つれの一隊。自異より脱る。訖声よく。小曲を置く。遙ふあれば。矢の跡の

西河集巻之九

買^かひ又^{また}は^はび^びて^て出^でる^るが。又^{また}は^は後^{あと}寝^ねは^は病^び馬^ばの^の妻^{つま}子^こは^は眞^ま愛^あを^をこ^こら^らに^にし^しる^るこ^こも。
 こが病^び着^しり^り苦^くし^しれ。さうを三^{さん}勝^{しやう}か^か信^{しん}く^くく。昼^{ひる}の^の終^は日^ひ首^{くび}病^びは^は夜^よの^の心^{こころ}を^を忍^{しの}び^び門^{かど}を^を互^{たがひ}親^{おや}子^こ三^{さん}人^{にん}か^かの^の端^はを^を三^{さん}寸^{すん}づの^の糸^{いと}を^を結^{むす}ぶ^ぶ。その^{この}味^{あじ}線^{せん}の^の子^この^の内^{うち}を^を受^うく^く扇^{あふ}名^なも^もま^また。家^{いへ}の^の夫^{おと}の^のさ^さに^に致^{いた}ら^らせ^せ給^{たま}へ^へれ。
 和^わ山^{さん}筑^{しゆ}波^は山^{さん}降^{くだ}り^りて^て今^{いま}の^の離^り節^{せつ}も。さ^さら^らの^の人^{ひと}ま^まの^の馬^{うま}耳^{みみ}東^{とう}風^{ふう}か^かる^る時^{とき}小^こも^も藝^ぎの^の力^{ちから}助^{たす}け^ける^るほ^ほの^の薄^{うす}命^{いのち}大^{おほ}い^いの^の三^{さん}勝^{しやう}を^を妻^{つま}と^とし^して^て迎^{むか}ひ^ひて^て産^うむ^む。乳^{ちち}母^{はは}は^は抱^{かか}り^り傳^{つた}へ^へり。假^{かり}初^{はじめ}の^の出^で居^ゐり^りも。高^{たか}人^{ひと}ホ^ほの^の會^{あひ}せ^せも^も世^よを^をれ^れ悔^くし^しら^らね^ね。それ^{それ}を^を三^{さん}勝^{しやう}の^のい^いく^くもの^の物^{もの}を^をさ^さら^らし^して^て愛^{あい}子^こ小^こ茶^{ちや}ろ^ろも食^くを^をさ^さつ^つえ^えつ^つ存^{ぞん}命^{めい}と^とし^して^て世^よを^をあ^あの^のめ^めひ^ひも^も。白^{しろ}河^{がわ}も^もて^て死^しな^なべ^べり^りし^し。彼^かが^が公^{こう}標^{ひょう}を^をさ^さら^らし^しが^がも^もて^て六^む年^{ねん}生^{せい}延^{えん}。い^いく^くの^の歎^{なげ}を^をさ^さら^らし^し。負^{おん}の^の病^びは^は身^みの^の病^び片^{かた}輪^{りん}車^{しや}の^の足^{あし}腰^{こし}と^とし^して^てい^いつ^つも^もと^とい^いし^した^た。

惣^{さう}小^こう^う身^みあ^あれ^れば^ば。彼^{かれ}ホ^ほハ^ハ人^{ひと}ノ^ノ寄^より^りも^も。小^こ給^{たつ}事^{こと}に^に五^ごヶ^がら^らり^りも^もあ^あら^らん。親^{おや}ハ^ハい^いく^くも^もも^もの^の音^ね敷^{しき}ハ^ハ愚^ぐ癡^ち奴^ぬ子^こを^をあ^あい^いむ^む祝^{いわ}ぐ^ぐも^もい^いく^く小^こ父^{ちち}ハ^ハい^いふ^ふあり^りあ^あの^の園^{うゑん}花^{はな}も^も今^{いま}ら^らの^の他^{ほか}一^{いち}縁^{えん}や^や締^ひび^びん。い^いく^くづ^づの^の恨^{うら}み^みら^らん。と^とも^もあ^あつ^つも^も活^いが^がた^た。か^か身^みを^を捐^{たま}へ^へ妻^{つま}や^や子^この^の又^{また}浮^うむ^む際^{はし}も^もい^いり^りぬ^ぬべ^べ。と^とさ^さら^らの^のい^いく^くも^も覺^{かく}期^きも^も。さ^さと^と翌^{あした}の^の夜^よを^をあ^あけ^けし^し。と^とも^もあ^あら^らに^にし^し三^{さん}勝^{しやう}ハ^ハその^の夜^よ五^ご六^{ろく}合^がの^の米^{こめ}と^と三^{さん}十^{じゆう}の^の儀^ぎを^をゆ^ゆ。二^に更^{もう}の^の比^ひ及^{およ}ぶ^ぶま^まり^りつ^つり。さ^さら^ら夫^{むこ}の^の姿^{すがた}否^{いな}を^を問^とひ^ひか^かゝ^ゝ。睡^{ねむ}り^りの^の小^こ枕^{まくら}さ^さ。暁^{あけ}の^の燈^{あか}火^ひ能^{あた}へ^へる^るど^どし^し。小^こ夜^よ更^{もう}る^るま^ま。さ^さ七^{しち}ヶ^が腰^{こし}を^を搔^か捺^なす^す。初^{はつ}未^み末^{まつ}の^の皮^{かわ}指^{さし}願^{ねが}ふ^ふ。小^こま^まの^の今^{いま}宵^よ限^{かぎり}の^の名^な残^{のこ}り^りと^とい^いふ^ふ。さ^さら^らの^のい^いく^くも^も暗^{くろ}禪^{ぜん}つ^つ且^{かつ}て^て三^{さん}勝^{しやう}ハ^ハ夫^{おと}の^の睡^{ねむ}む^むを^をさ^さえ^えて^て階^いす^すま^まを^を休^{やす}め^め。物^{もの}を^を引^ひ被^ひり^りか^かを^を搔^か抱^{かか}て^て夫^{おと}の^のほ^ほろ^ろり^り。臥^ふし^し。結^{むす}糸^{いと}と^と起^たつ^つ。火^ひを^を乞^こ粥^{じやく}と^と煮^ゆさ^さて^て。夫^{おと}と^と女^{むすめ}見^みよ^よ食^く



良人を
看病と

三勝



良人を
看病と

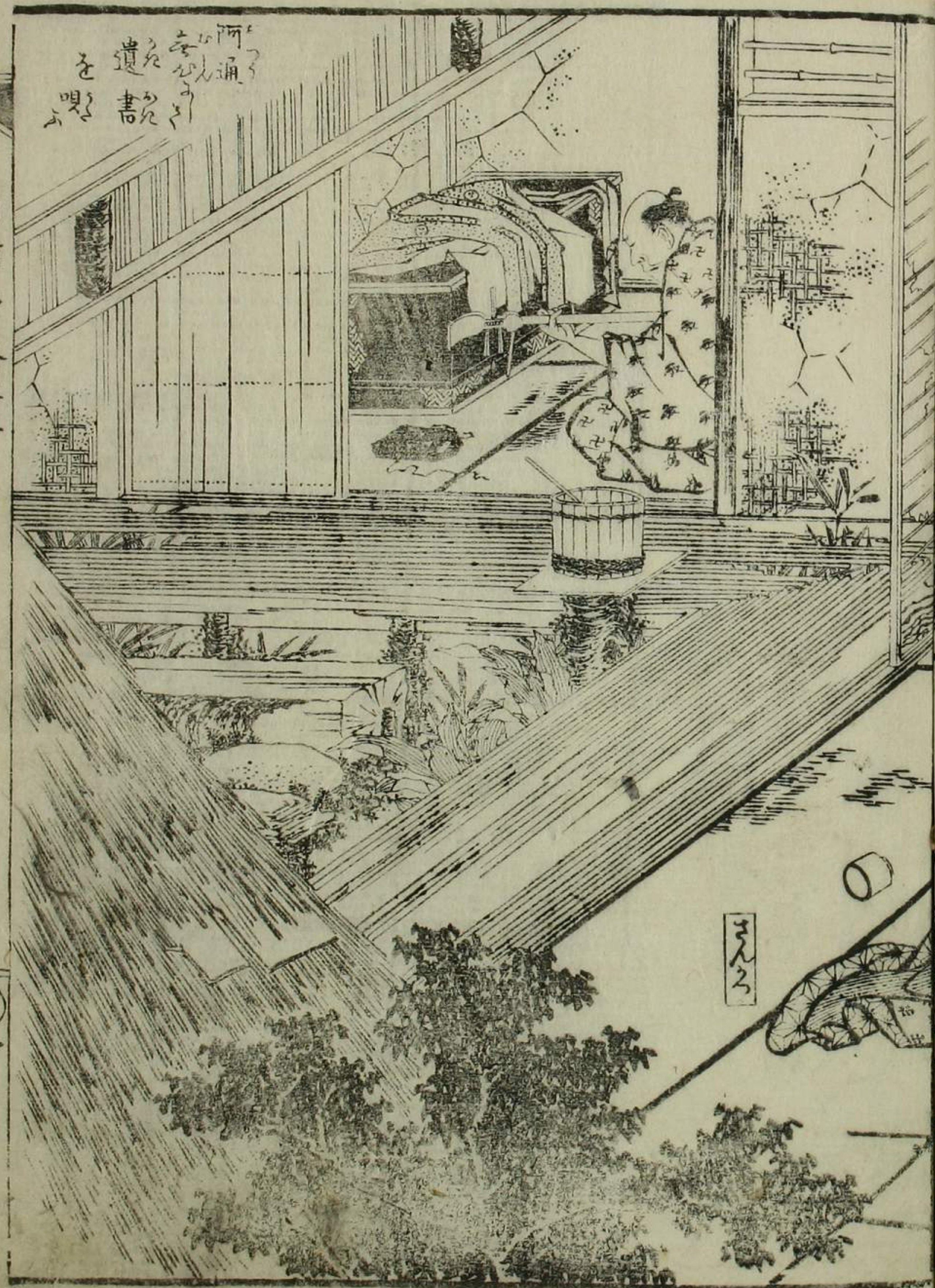
三勝

乃よあどくゆりありさる。彼三味線の張本ぬ放り、射はや嚙ぬふいど
 ひと運しと宿るが。夕び又睡を催せば父の女児を引奇つ。よく記し
 忘るるよ。唱へ母がゆをうり。誓もぢん歎れもぢん常の暮る。と寐よ
 とのふよ。今宵ハ二更又移もあは尿志く未よ。と子をたれど交りて
 几蹙の膝を枕又睡顔。夕び覺しても憂ぢぬ。か子の教をつぐ
 と。んればありハ壯士の勇にさろも息愛よ。さうさあけり涙あり。且して
 傍うらつえ。噫れあがらひひひ。お義のあは捨し命と妻ハよ
 絆されく。くふささぐ。活る悔しきよ。死しりと次ふ大和ある。園花
 が恨も散父の怒も解ぬべし。とんちへども。三勝が夫のあは食して
 頼とぢぬ公操ハ。比稀ある負女のむ。家を失ひ今宵又。れよま
 捨れく。夫婦一世の列とも。あつた玉。あつて慕し。女児ハ母より父がら。

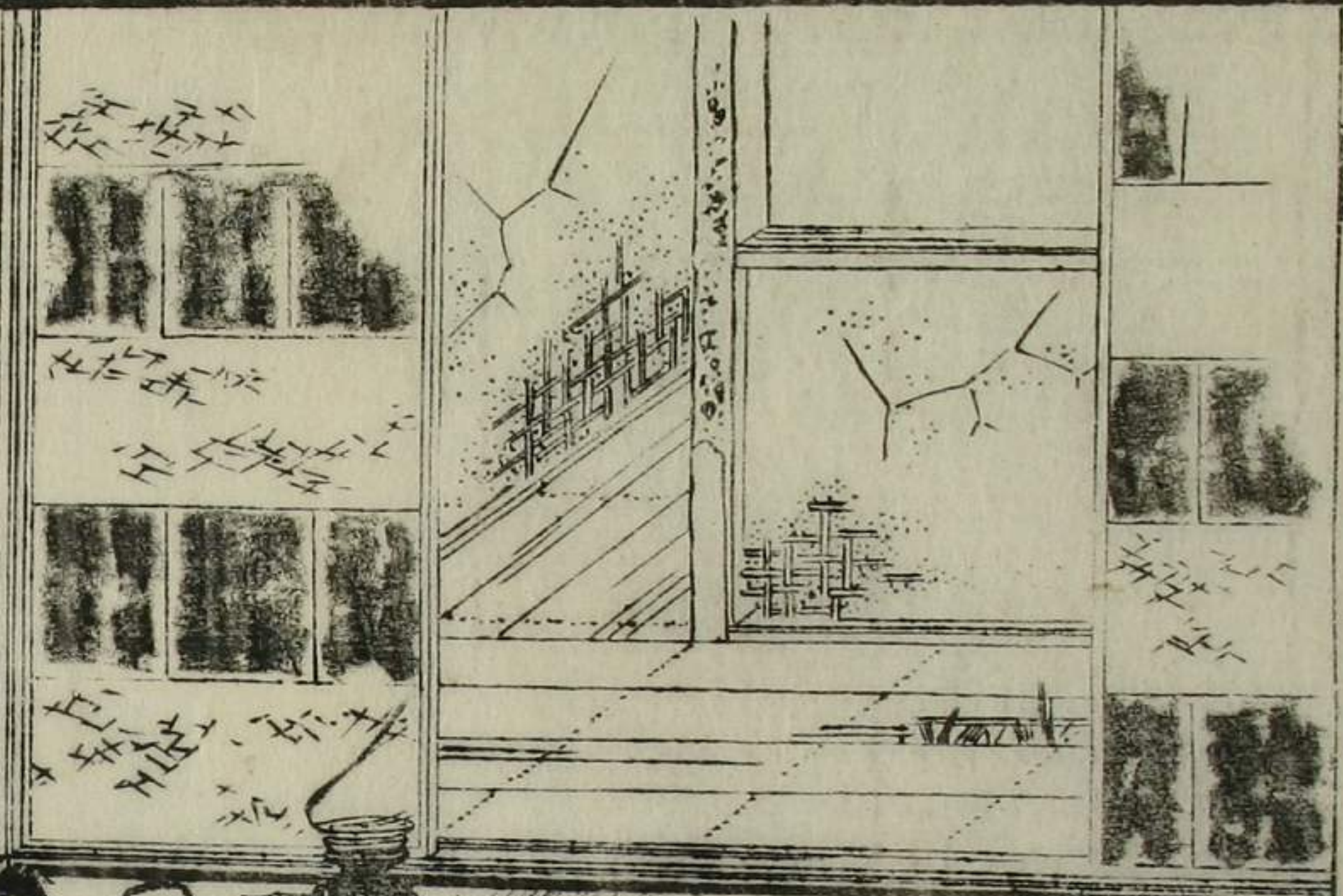
面影をえ忘るる。年長物の哀れをも。ある程悲しくわらんか。ん
 蛇気もあつてちたうあり。母よ孝行盡せり。五才の依子が。の緒
 かのりく。唄も秋も今。親の末期の役も。是も過世の業因あら
 の。くも教へる。唱をを忘れ。と寝顔を覗く。暇を絶る。ちと
 膝を引。親子餓ても渴ても。昔忘れぬ。両刃の。父の像見の乱焼。れぬ武士
 の魂と。押戴れく。披もあら。襟らうらうら。中刀。腹ハ突互んとする。折
 しも。同近く。はあ。足音よ。と。三勝がゆり。と。刃をうく。せ。それ。あ
 ら。次。の。る。の。障。子。と。困。る。と。暗。り。と。ど。と。り。と。ひ。り。と。ら。ら。
 呵くと笑ふ声を図ハ。甲夜よ歌よ。旅安ん。彼もあ。と。三勝が帰
 らぬ隙め。と。か。い。も。く。又。と。り。あ。は。と。刃。の。光。よ。不。圖。目。を。覺。え。と。推。見。が。
 返物と声よ。引れてや。三勝ハ喘く。走りゆり。つ。信と。え。と。吐。嗟。と。内。

阿通
を遺書
を遺書

阿通遺書



三三



阿通遺書

三七



田毎の月の歌あさき。らんげ。らん。十隈川。濡る袖。この月の神

も。締ぬえ。う。と。契。王。後。あ。獄。あ。煙。と。このぼ。を

さ。と。久。采。路。の。橋。筑。傍。の。湖。氷。る。と。都。井。の。ぬ。る。べ。東。の。の

此。湯。の。東。の。間。も。寐。覚。の。床。の。寝。ど。い。も。の。も。る。り。あ。さ。き。の

も。さ。本。と。こ。と。暮。あ。ふ。ら。ぬ。あ。る。歎。け。あ。あ。の。園。も。こ。え。て。御。坂。よ

さ。ら。え。よ。と。さ。ら。が。り。を。助。よ。子。を。り。ち。月。の。駒。や。食。む。う。れ。せ。を

さ。る。琴。科。の。言。の。紫。を。あ。と。わ。れ。ど。遺。せ。り。

と。う。と。果。は。三。味。線。も。の。撥。を。ぞ。あ。さ。め。り。る。二。務。唱。を。あ。い。は。す。

悲。し。り。る。限。で。あ。る。病。さ。す。牙。を。恨。さ。る。ん。と。あ。い。定。め。あ。い。理。小。似。て

理。さ。る。さ。る。残。さ。る。妻。や。子。の。む。も。精。一。ぬ。へ。う。あ。ら。ん。と。な。親。と

子。よ。壁。に。こ。ま。の。一。の。猪。が。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と

必。死。を。救。へ。と。く。神。の。身。を。あ。い。ら。ん。殺。し。ら。ん。と。う。れ。口。鏡。魂。也。も。う。り

と。も。ま。せ。ん。え。さ。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と

ず。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と

と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と

此。方。に。捕。り。割。り。取。り。三。人。煩。悩。の。西。韜。に。ね。の。意。馬。を。猿。も。あ。い。ら。ん。と

る。玉。の。猪。も。今。や。對。ん。と。え。え。と。り。さ。る。浩。也。に。次。の。間。より。慈。願。を

押。定。め。や。さ。ら。ぬ。と。呼。び。け。つ。三。味。線。川。提。る。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と

られ。を。え。う。ら。よ。甲。夜。に。歌。り。猿。客。の。差。松。卒。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と

げ。ど。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と。あ。い。ら。ん。と

西。騎。狼。の。宿。の。下
このとら平三の才七の針ひか、忽卒小吹うけつと不審もあそんが豫さ

女児が物ごとりよて。ゆもるひのあつめ。あのれい美松平三あり。志ろよ今宵の
 の驛路を。これよ。一々。無状を賣。彼此の門は。多在女子あり。美り
 面を。わく。たれど。その声を。すくよ。が。女児よ。似たり。それ。と。いひ。あつ
 ろ。あつ。の。因。む。ら。よ。ま。り。り。く。夜。規。ふ。果。一。く。それ。と。飛。ら。と。り。り
 わり。う。ど。ま。づ。れ。身。が。送。言。の。逐。成。す。ん。た。よ。名。士。も。あ。り。ら。の。二。味。強。め
 ろ。ろ。ろ。の。さ。あ。ら。め。ら。く。操。持。と。五。十。よ。る。か。老。が。ま。よ。と。権。孫。が。遍。小。色
 弾。ま。り。の。う。愛。ら。れ。声。を。す。ま。決。の。種。悉。べ。く。わ。く。る。穴。竊。柱。小。撥。の。當
 度。も。定。く。む。あ。と。と。戻。る。糸。巻。よ。音。締。も。混。る。真。愛。と。い。恩。愛。の。揚。う。け。く。
 小。牙。が。自。害。を。ひ。た。留。る。綱。子。ら。び。の。不。骨。者。あ。つ。け。り。た。後。を。く。く。
 東。の。果。さ。る。呻。吟。も。三。勝。が。往。方。を。あ。ら。ま。ほ。く。と。さ。ら。う。く。む。も。歌。を
 あ。り。て。う。く。う。塚。骨。と。殺。さ。げ。た。と。い。ひ。も。果。む。つ。と。空。可。く。矢。庭。よ。奴。を

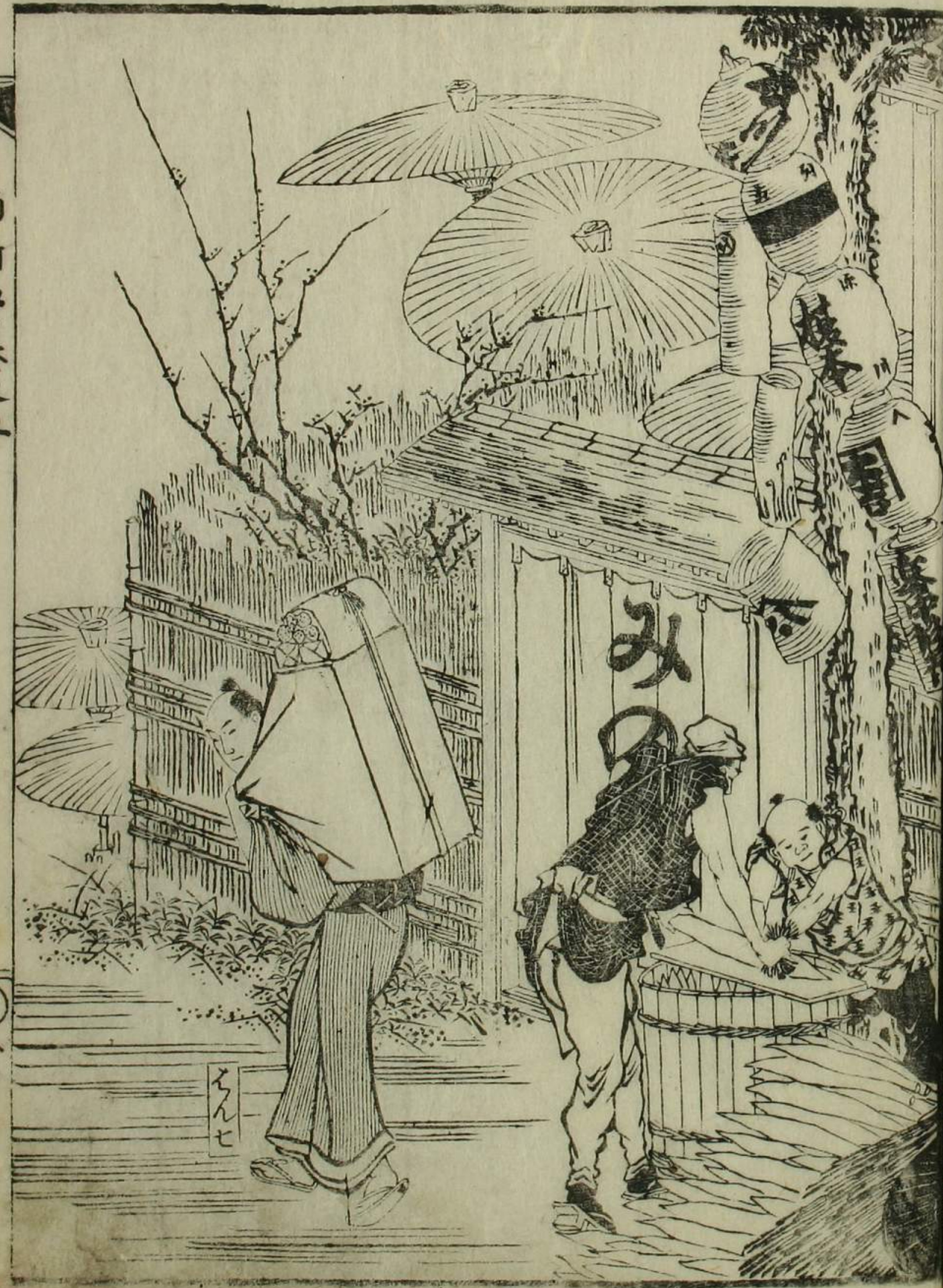
棄。集。い。ら。り。す。く。鞋。よ。あ。ら。ま。く。三。勝。よ。通。子。一。つ。の。み。で。樓。月。は。六。年。の。む。じ
 三。條。河。原。よ。く。小。牙。を。入。よ。棄。集。い。ま。ら。れ。と。れ。と。も。脚。平。足。平。を
 殺。し。た。る。罪。脱。び。て。あ。ひ。て。その。夜。路。を。逃。去。し。四。年。あ。り。り。を。奈。良。う。と
 高。天。神。の。茶。店。よ。く。領。主。の。代。表。茶。う。と。あ。ぼ。れ。武。士。小。割。龍。を。忠。心
 也。大。佛。の。ほ。ろ。り。と。到。く。それ。を。披。け。た。ち。ひ。も。う。け。ど。飯。の中。よ。一。包。の。金。を。埋。ま
 二。勝。が。身。價。と。字。し。たり。の。為。体。り。と。怪。し。けれ。ば。縁。故。を。あ。ら。ま。さ。り。や
 と。く。豫。く。三。勝。よ。由。縁。あ。り。と。す。く。五。條。よ。い。あ。れ。と。赤。根。守。六。好。の。め。を。因。り
 里。人。答。く。彼。人。を。その。兇。手。と。い。ふ。の。落。よ。あり。と。三。勝。と。う。め。く。三。勝。を。誘。ひ
 逐。電。走。る。罪。あ。ら。ま。く。永。く。出。仕。を。止。ま。し。直。執。虫。あ。め。と。い。う。と。う。り
 至。ろ。これ。め。り。ら。く。三。勝。を。棄。集。い。ま。た。る。れ。結。髪。の。夫。守。七。ま。く。あ。り。り
 と。も。あ。ら。ま。れ。ば。方。人。で。徒。と。挑。ま。争。ひ。入。を。殺。さ。と。大。罪。を。犯。せ。り。と。を。悔

贈し。そのくち三務を結髪むすぶの妻つまをんありとせられもさういふ。彼を棄すて去まて。市君いちぎみの悪名あくなを雪ゆぬ。直ただに刺殺さしころして。それ又自殺じこく。情慾じやうよくのたふせ
 たる身みを潔けつせんめと。只ただ管くだち定さだまれ。恨うらむる人ひとの女児にじこを産うむ。その罪つとへい
 と深あく。さて三務さんむの身價みんげのその親おやより。あつて立たげ。旅りよ宿しゆくの厚あつ
 君きみ氏うぢと後のちのさう。相あ給たまひた。彼人かのひと言ことを食くむ。侍さむらいの金かねを没ぼつする。さうする
 身みの長ながをさす。その命いのちを喪なむ。艱い苦くを厭いとむ。三務さんむが。往ゆ方かたと索もとめあふ。世
 にも稀まれなる大おほ丈夫ぢゆうぶさ。七ななか。あつて。いと頼たのり。く。いと。頻しばしばに稱ほめ賛さんふ
 たり。三務さんむも又また嘆なげ賞しょうと。卒つひに。死して。い。な。れ。女に児こは。あ。ま。い。は。う。た。れ。とも。
 彼かれが。彩さい代だい蓮れんの骸がは骨こつを賣うり。自この老おほ樂らくを。と。も。ら。ん。と。さ。ぞ。い。は。れ。志こころ氣かある
 り。常とこに。只ただ。身みの夫おとこ婦めかけが。孤こ忠ちゆうを。怨うらむ。日ひ以も同どう。と。結むすぶ。と。の。夫おとこと。の。妻つま
 あり。誠まこと。一ひと世よの奇き耦ぐ。天あまの。結むすぶ。良よ縁えん。加か。之これ。孫まご女に児こが。怜あはれ。物ものなる。容ゆる止と。父母ふぼ

小似こにと愛あふ。年としのつと。名なの行ゆく。と。同どう。と。あ。む。の。雄おとこの。抱かかを
 ひ。年としの。名なの。あ。む。と。い。れ。け。り。日ひ未み母ははが。と。あ。つ。も。祖い父ふの。在あり。の。い
 志こころに。あ。つ。く。ほ。う。と。い。け。り。い。ら。せ。も。と。あ。り。せ。よ。夢ゆめさ。ゆ。母ははの。中なかに。
 と。言ことられ。め。と。い。け。られ。言ことの。紫むらの。又また二親ふたおやの。袖そでも。ま。あ。ぞ。あ。れ。あ。る。卒つひに。日ひ
 を。押お拭ふひ。膝ひざも。あ。む。を。載のり。つ。あ。る。女に児こを。り。ら。せ。つ。死しん。と。あ。り。の。親おやも。親おや。
 恩愛おんあいの。絆かぎも。賢けん愚ぐ剛臆ごうおくの。差さ別べつあり。猛もうお。勇ゆう士しも。あ。つ。ぬ。め。を。鬼おにに。い
 ち。い。れ。と。恨うらむ。も。親おや慈あはの。呻う言ことあり。ま。せ。い。卒つひに。練あら。れ。て。終つひに。志こころを。果
 一ひとに。い。れ。る。も。を。れ。ど。と。く。ち。づ。歎なげ息いき。ら。り。る。の。と。れ。夜よの。既す
 小更こさら。宿しゆくの。あ。つ。が。臥ふた。る。套あ房ぶどうの。方かた。遠とほく。れ。ば。の。件せうの。い。め。と。さ。ら。つ
 卒つひに。日ひの。膝ひざも。睡ねれる。あ。む。を。三務さんむも。抱かかる。と。洞どう卷まきの。財さい布ふあり。奈な
 良よく。い。れ。る。身み價げ一ひと包ふくと。り。物ものなり。夫おとこ婦めかけが。同どうに。あ。れ。る。と。三務さんむの

玉更に西を存す。支るる。十日あきり。浪速に到る。長所。不
 備家して。多なり。とも。膝を容。何を。信業。せん。強。ま
 予三の原。未。俳。優。の。子。孰。髪。を。作。り。を。ゆ。り。ら。れ。う。り
 め。つ。た。入。髪。と。り。め。の。を。作。り。ま。七。の。毎。日。は。彼。此。に。め。く。出。て
 これを。鬻。ぐ。よ。改。髪。を。ま。た。り。の。改。髪。を。ま。た。り。す。り。九。く。う。と。く
 買。入。も。多。り。り。り。その。ち。之。務。又。兼。髪。又。と。り。め。假。髪。を。工。作。して。予。三。と
 とも。よ。これ。を。作。り。ゆ。り。め。の。入。髪。の。改。髪。の。ま。た。れ。ど。兼。髪。の。髪。兵。の
 髪。を。掩。る。れ。魏。宮。は。蟬。髪。を。製。る。め。緑。雲。擾。く。う。て。曉。髪。を
 梳。る。が。工。婦。女子。大。子。珍。重。兼。髪。を。作。り。た。れ。ば。て。之。務。ま。七。を
 綿。号。して。長。所。の。兼。髪。と。り。め。の。髪。を。ゆ。り。め。の。兼。髪。を。ゆ。り。め。の
 髪。の。入。り。め。の。隠。兼。髪。と。世。を。た。の。が。ま。七。も。ら。る。の。外。は。商人。と。あり。

住。又。住。の。岸。の。姫。松。年。預。御。達。假。髪。め。され。よ。の。外。も。髪。結。眉。掃
 玉。櫛。等。と。う。と。を。近。く。浪。速。津。を。作。り。め。も。皆。裁。ま。る。数。日。の。療。治
 小。三。保。が。身。價。を。遣。ひ。減。ら。又。ら。よ。ま。末。ま。る。活。業。を。致。す。も。本。後。清
 雜。費。され。彼。二。三。十。金。よ。り。多。く。を。買。入。ま。す。り。め。の。件。の。金。を
 舊。の。數。よ。り。厚。君。二。年。を。夫。よ。返。さ。す。と。親。子。夫婦。され。か。り。め
 り。その。む。を。盡。し。夫。の。物。も。活。業。に。懈。ら。ど。妻。の。又。節。儉。を。宗。と。し。て
 飲食。も。薄。く。ま。れ。ど。毛。より。細。れ。瘦。世。帯。ま。る。二。三。十。兩。の。金。を。忽。ち
 小。貨。殖。と。せ。り。も。あ。ら。れ。の。ま。七。の。父。ま。六。が。女。否。ら。る。も
 と。ま。れ。が。の。ひ。く。よ。奈。良。と。五。條。の。乃。伴。を。探。問。ま。六。の。今。あ。何。因。と
 め。し。れ。り。つ。と。い。う。老。ら。む。を。花。の。下。と。び。想。思。病。よ。う。ち。臥。し。て。う。り
 た。え。く。首。を。擡。む。の。七。年。の。程。死。七。す。と。信。も。で。ど。され。る。典。借



角可...

らん七



世に髪
行色
松
と
種

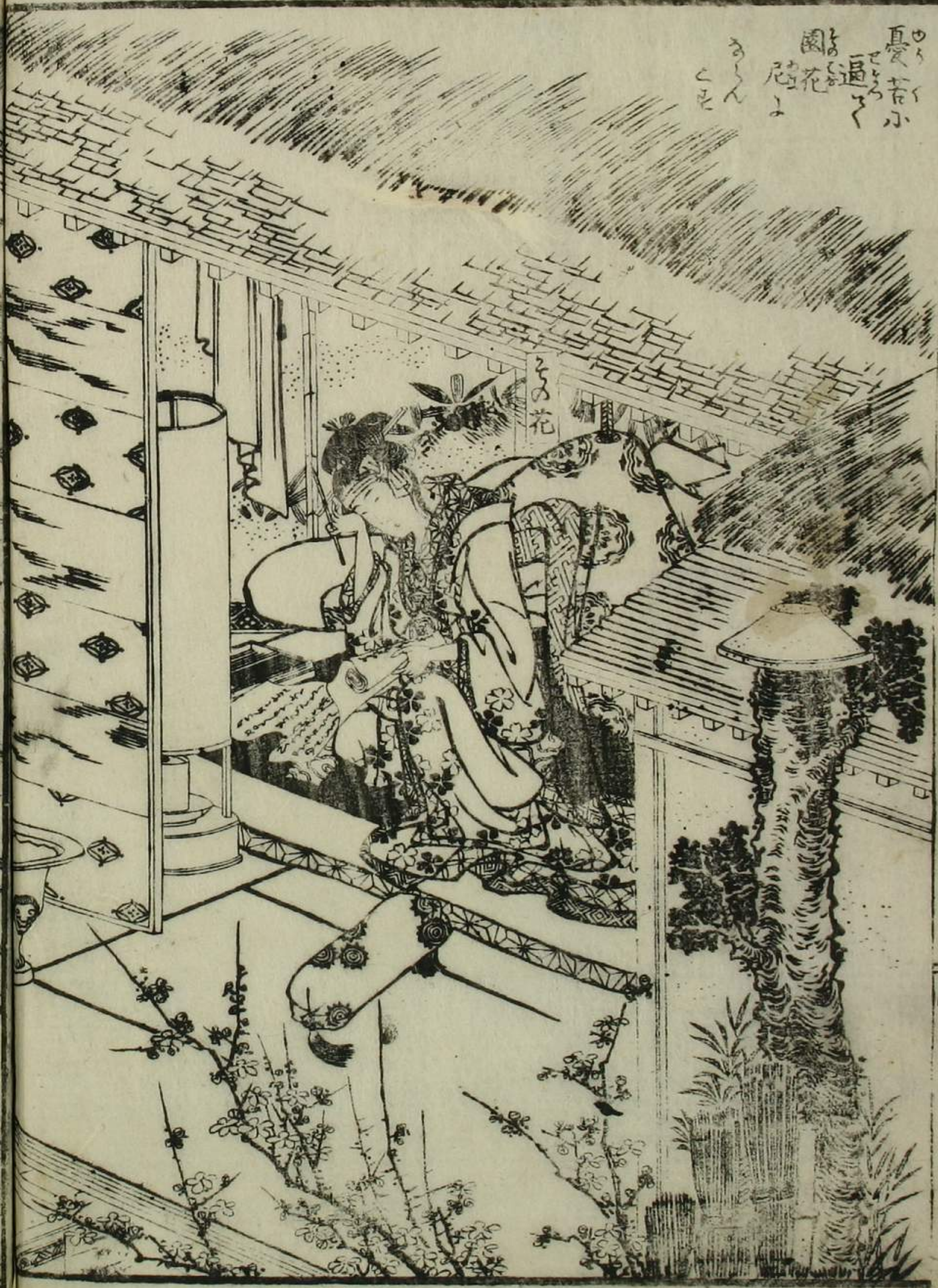
南...

却病をうけふもよく。只典結も爰浪も憤を忍びく。半七がみん
 いひも罵らど。その花ハ又密に五條へ消息く。そりく半七が安否を
 向られハ日來嗜むもの。彼の堅守する心。みん歯はあひあつらんこと
 扱りの廣りの魚肉野菜調理するを贈き。又執虫居の之ハ氣の
 結きまのらんこと。佳酒を贈るともあり。春のとりり冬のスドめ
 みの衣服の洗濯もを著る。うねづえくねやう。賄ひ遺をもふ。
 又母あふく。匿して。ろ利する奴婢。只二人。この條のみを与ら
 けり。半七ハ園花が。信あり。小感涙を拭あせ。ゆるん。半七ハ
 諒もく。また舞く。よさひくえ。か。負女をゆり捨る。さきく。虚花
 のあハあつざり。舞く。といふ。老狐ハ魅られ。親をも妻をもさくねよ。
 九ツのそよ生ハ変るとも。半七ハ子が。子よあ。只園花の。実の女兒と

さひ進下。さるとく。ふがそ。限り書。写。返。り。さ。る。日。あり。じ。と。で。
 かくて春去。春去。春去。と。既。七。年。を。さ。せ。よ。この。あ。り。誰。り。と。さ。る。ん。
 ませハ彼舞く。を妻とく。浪速の片海と。長町といふところあり。
 今の商人とありて。蓑屋と。假毛といふの。を鬻。く。信。業。と。し。
 お通といふ女子。之産く。既。六。才。あり。ぬ。大。和。へ。十。里。と。さ。る。ぬ。浪。速。
 津。に。住。ひ。く。ま。を。の。人。をも。憚。ら。ぬ。鳴。呼。の。白。物。な。れ。と。く。儀。中。の。り。
 そ。風。声。を。園。花。の。中。と。れ。を。傳。笑。く。ト。さ。び。ハ。半。七。が。恙。な。れ。と。結。ひ。
 え。ト。さ。び。ハ。又。母。り。は。あ。り。ぬ。ん。あ。れ。主。君。の。威。勢。を。借。く。し。つ。あ。り。生。か。る。
 ぬ。じ。の。み。ど。ん。と。く。更。に。安。を。知。も。み。あ。る。と。れ。又。さ。や。う。半。七。ね。い。ふ。
 不慮の。み。あ。り。て。ん。と。ま。か。身。の。好。み。く。又。は。勸。め。か。れ。め。ん。と。さ。る。人。
 と。ま。の。人。ハ。い。ま。る。べ。し。や。か。夫。舞。く。を。付。ひ。く。竹。園。の。浦。に。在。る。

外もぐりその安否をみるにたの慰むるもなれど。もよのの心探る
言告やうん便もあはれど。さうよ風声をひひ止むとて胸をうぐ
もよおしも果しく典膳も守せがみ代りあり。大に怒り。密に彼は
縁由を物わらう。彼りうら。年暮の憤を散えとりえとて婢竊
盗し。懸る園花よわくと生まらん。園花打撃たう。されがさうか
もよよ違ね。今ハ只とあをを教し。又母を凍夫を救ひ。年暮の減を
をもあし。竹るべ。あうまうくとさひ定められ。まきあもあうりて。頃
もよ年極の上旬。宵の霞も吹霽う。休ゆくう。氷る夜。園花を編
み起し。そと行燈を引あさる。腕も細くう。力あ。寝乱し。か
鬘の毛の顔よわらるを搔あげれ。只あややく。か。か。候。候。墨を
搦流も。嫁入のととの視箱。夫の紋と。か。後を。時繪ち。じ。い。ご。う。

夏毛秋毛とあ筆の命も。今宵限る。もあう。あ。あ。又母の敷たも
さ。と。と。推量ら。と。聖ハ。か。牙を啼鳥の迹の。う。之。細く。と。書。写。り。て。う
續く。ら。か。る。え。あ。め。か。う。り。て。記。を。祝。ぎ。の。う。か。さ。る。ひ。り。と。さ。う。う。筆。を
笛巻納んと。さ。あ。あ。ひ。も。の。つ。ご。り。の。行。り。翔。窺。え。ん。咳。く。く。屏。風
搔。き。り。内。よ。入。る。を。見。え。ど。母。親。る。う。園。花。打。呀。と。驚。た。う。忙。く。遺。書
を。袂。の。内。に。引。く。さ。ん。か。ん。さ。ん。ご。も。母。ハ。え。ぬ。白。く。て。ほ。ろ。り。ち。う。う。履。く。り。や。う。
昨。今。ハ。寒。も。殊。さ。う。よ。あ。海。ゆる。ふ。え。く。病。く。ゆ。う。さ。が。小。夜。あ。け。く。竹
を。う。あ。め。の。流。る。水。か。ら。ろ。あ。と。ど。か。さ。る。さ。う。さ。う。と。秋。鬼。く。く。羊
七。を。う。の。り。と。さ。ん。か。ん。さ。ん。母。が。あ。も。安。く。ん。大。和。の。あ。う。ふ。る。神。佛。あ。ん。
願。事。も。か。け。つ。し。顔。の。細。く。を。え。る。毎。よ。か。あ。の。病。く。う。あ。母。苦。く。咳
入。り。あ。入。夜。半。の。声。さ。け。り。が。さ。う。か。う。睡。ら。し。と。ど。さ。う。ふ。今。宵。ハ。常。よ。か。う。



を夢みのこもや 七年をくらせむも。とえより嫌ま。身を阿容と
浪速ま。ゆたき恨をいり。致。化多舞。の像世は香
花の三つどめと園花を。深山木の。果をか。と
初め。笑ま。耻の辱ま。けり。入理。責ら。と
初の捨言。つら。も子。妹夫の中を。裂。姉婦と
そ。緘目の合。蝶番。国房の。風。ま。と。て。連
も。人。捨。冬。骨。病。あ。
ま。彼。ゆ。情。願。彼。
ま。百。榮。吉野の。花。大。の
も。お。ひ。出。の。後。喜。成。佛。
い。親。先。不。孝。の。眼。ゆ。と。合。と。掌。は。張。る

涙の瀑布。岩は堰。と。ま。も。末。逢。人。と。い。ね。標。を
母親。も。お。ひ。出。と。い。ひ。と。始。終
情。ま。ぬ。世。の中。乃。人。と。あ。る。の。を。親。も。及。ぬ。を。言。の。袋
と。名。の。あ。ら。う。ぬ。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
う。行。り。あ。ら。う。ぬ。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
る。ん。が。い。を。と。と。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
お。ひ。出。を。審。問。ま。と。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
お。七。が。長。町。と。や。う。ん。の。隠。家。を。と。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
述。その。意。を。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
婦。の。顔。し。ん。の。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。
る。で。あ。ら。う。ぬ。い。ひ。と。ね。が。彼。人。の。あ。ら。う。ぬ。を。母。が。あ。



布池蝶丸郎



園巖
曾大席
馬
徳

あり松田良郎

今市全郎

却悪を增長し。旅客を引剥せんとし。その罪并一どし。その
潜の旅より。奈良へ預けゆくことせむ。みづき首を継ぎし。其
ても羞む。や。多悔。く。どや。と。し。驚。し。又。数。回。打。は。ぶ。全。八。蝶。
九。昂。苦。痛。は。堪。ど。只。ゆ。り。身。并。一。の。と。叫。び。たり。その。と。れ。る。ち。り。
刀。を。か。こ。え。腰。に。著。る。小。挑。灯。を。と。り。出。し。橋。を。挑。灯。の。灯。を。う。り。
遂。は。浪。速。を。う。り。し。そ。だ。去。り。多。く。更。團。れ。ば。その。夜。平。岡。の
宿。あり。て。彼。後。者。を。結。み。次。の。日。徒。者。の。深。江。を。追。著。し。と。ぞ。こ。る
秘。全。八。蝶。九。昂。の。や。や。く。小。牙。を。起。し。く。ま。づ。自。脈。を。診。打。き。し。其
こ。ろ。く。は。唾。を。塗。り。拍。捺。を。ど。し。直。と。呆。し。く。目。を。見。あ。り。つ。蝶。九
昂。の。し。や。り。今。夜。稀。る。孤。客。を。索。し。これ。は。た。れ。を。と。と。と。ひ。つ。る
ふ。幸。な。ら。と。た。あ。ん。眼。も。眩。も。か。ま。さ。く。死。く。ま。う。と。ん。づ。ふ。闇。れ。ば。と。を。

足がけちり足に定ると。汝も吾も。曾々亭よりと。かみひうけ。可
惜肩を費し。刺しめめをえん。忘る。と。吐。き。全。八。の。面。を。單
め。で。博。八。記。と。い。は。ら。た。り。も。あ。り。は。り。た。り。も。あ。り。て。や。は。ら。の。蝶。九。昂
か。さ。め。く。と。た。り。と。の。は。が。ら。ら。た。り。と。た。り。は。も。れ。も。恨。め。赤。根。の。七
ハ。彼。三。務。を。妻。と。し。浪。速。の。長。町。の。あり。と。ぞ。あ。り。め。一。貫。は。と。む。
密。に。這。奴。を。結。果。三。務。を。奪。ひ。去。遠。く。東。の。果。る。と。く。賣。遣。さ。し。今。夜
の。損。ハ。補。へ。べ。し。さ。ら。あ。り。ぬ。う。と。の。み。を。全。八。は。め。あ。ら。と。大。に。飲。び。し。又
金。の。蔓。も。堀。當。り。と。ふ。ら。あ。ら。ま。せ。七。の。る。ち。ち。も。分。ら。ず。桑。畑。の。奴
法。人。も。も。務。を。た。れ。に。借。り。し。と。針。が。は。り。ん。ぐ。せ。し。と。示。め。る。夜。の
山。下。ハ。笑。へ。人。の。あ。ら。ね。ば。あ。ら。く。と。彈。る。氣。も。も。る。声。高。や。と。暗
譚。つ。遂。は。空。橋。を。扛。起。し。と。れ。も。平。岡。の。か。え。と。く。ゆ。た。ぬ。抑。件。の

全八蝶九舞ハ七年以前なほ奈良なほをあは追放おしなせしむ。按律せり河内わちの
 間まをま徘徊まよし。到いたるところところ悪友わるとのま交参まじりし。ぬ亦また為なることせし
 復また不里ふ入り亦また憎にくま。使つかりしことにま入りりしこともな旅たび轎かをあ昇あ
まう。生活まよとることとま耻はをあらせることもな動あまらバ旅客きやくをあ切き
まう。非法ひのま残ごをあ貪ありしこと人ひととま計け較けぬこと固まはず憎にくまこと也なり。憎にくむ
まはず癖くせ者ものなり。

三七全傳南柯夢卷之五終

